



学校だより

5月号

令和3年4月30日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



めんえきりよく 「免疫力」

学校長 後藤 直樹

4月は心地よいお天気が続きました。晴天で気温は高くも低くもなく、風のない穏やかな日、極端な気象が頻発している近年、こんな日が一年の中で何日あるのかとつい考えてしまいます。子どもたちは順調に新年度のスタートを切ることができました。

着任してひと月、いくつか気付いたことがあります。先日の懇談会で触れたのは、話を聞く姿勢の素晴らしさのことでしたが、お話したいことは他にもたくさんありました。その一つが給食の残量（食べ残し）の少なさです。食品ロスの削減は、社会的な課題にもなっていますが、それが見事に実践されていることです。決して昔のように、無理やり残さず食べさせるような指導はしていません。給食の時間に教室を回ってみると、子どもたちはコロナ対策のガイドラインをきちんと守り、前を向いたまま一言もしゃべることなく食べていました。たまたま昼の放送が始まっていなかったせいもありますが、階段を上り、廊下に立った時、人の気配を感じないほどの静けさがありました。褒めてあげたい気持ちと同時に、本来であればそこにあったはずの楽しい給食の時間には見えないことが悲しくなりました。

4月の朝会で子どもたちに「免疫力」の話をしました。人間（動物）が長い進化の過程で獲得した体を守るための素晴らしい仕組みであること。そして今最大のニュースになっているワクチン接種にしる、この免疫力に頼る方法であることを低学年の子どもたちにも分かりやすいように、少しかみ砕いて話しました。そして最後に、この免疫力を最大限に発揮させるためには、十分な睡眠と食事に加えて適度な運動が大切であることを伝えました。給食をしっかりと食べていることも、毎朝、長い坂道を一生懸命に登って登校していることも、広い意味では感染症対策につながっていることとなります。消毒や手洗いうがいによる予防対策と合わせて、基礎体力の維持も現在求められている大切な課題であると認識し、子どもたちの安心・安全を守っていきたいと思います。

